

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

令和6年10月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

【資料1】調査の概要

<調査対象期間>

令和5年度間（令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日）

<調査対象>

岡山県内全ての国公立 小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校

学校種別	学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	370	94,614
中学校	161	49,563
義務教育学校	2	501
中等教育学校	2	1,111
高等学校	89	53,772
特別支援学校 ※	16	2,312
計	640	201,873

※ 特別支援学校については、いじめに関する調査のみ実施

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。

ここでは、県民の皆様に、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

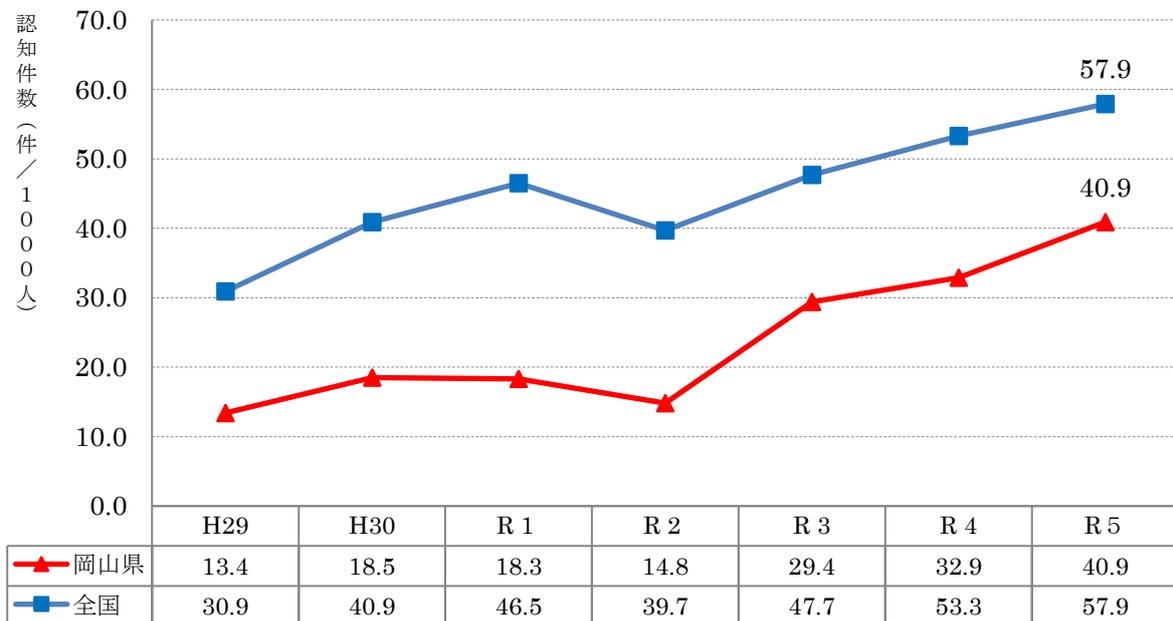
【資料2】いじめの認知件数、解消率 等

・認知件数は、全体で1,539件増加した。

<国立・公立・私立 小・中・高・特 計>

年度	認知件数	いじめの解消率 (%)		1,000人当たりの件数	
	岡山県	岡山県	全国	岡山県	全国
令和3年度	6,085	71.6	80.1	29.4	47.7
令和4年度	6,723	66.0	77.1	32.9	53.3
令和5年度	8,262	66.4	77.5	40.9	57.9

1,000人当たりのいじめの認知件数の推移（小中高特計）



○ いじめの定義（いじめ防止対策推進法 第2条）

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

○ いじめが解消している状態とは、次の2つの要件を満たすこととする。

- ① 被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネット含む）が止んでいる状態が相当の期間継続（3か月が目安）していること。
- ② いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。

【資料3】高等学校中途退学者の状況

・中途退学率は昨年度と横ばいで全国平均を0.1%下回った。

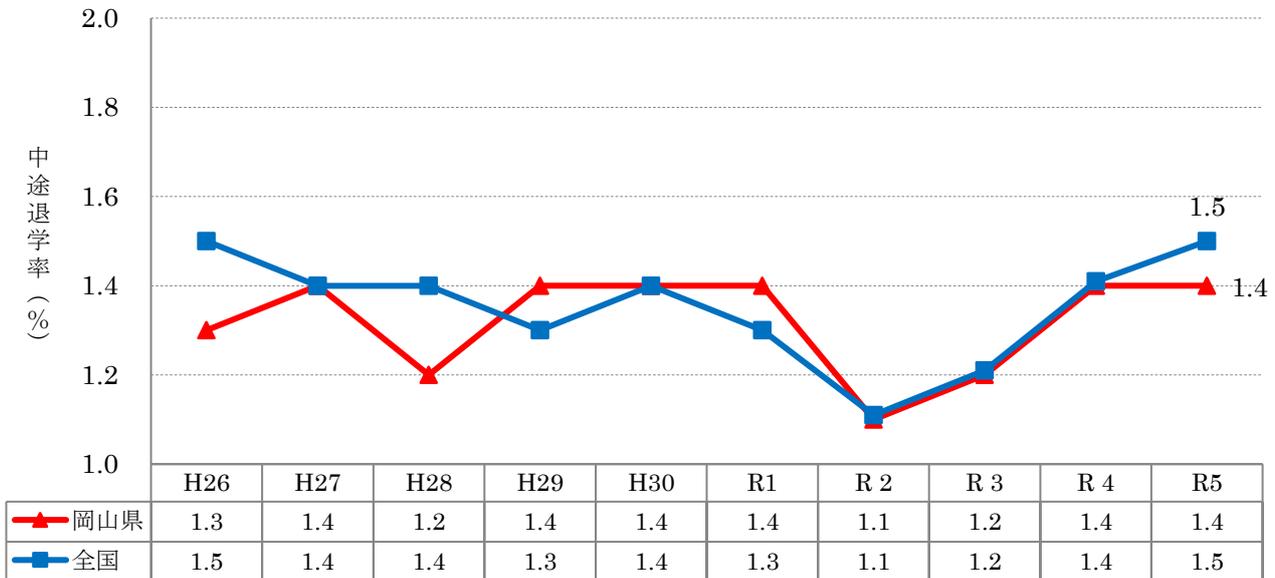
<国立・公立・私立 計>

中退者数・中退率等	国立・公立・私立			
	中途退学者数	在籍者数 <4/1 現在>	中退率 (%)	
			岡山県	全国
年度				
令和3年度	683	55,064	1.2	1.2
令和4年度	755	54,556	1.4	1.4
令和5年度	762	54,222	1.4	1.5

○ 中途退学者の定義

「中途退学者」とは、当該年度の途中で校長の許可を受け、又は懲戒処分を受けて退学した者をいい、転学者及び学校教育法施行規則の規定（いわゆる飛び入学）により大学へ進学した者は含まない。

高等学校中途退学率の推移（国公立計）



【資料4】長期欠席・不登校等の状況

- ・小中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は、全国と同様、増加傾向にあるものの、全国平均と比べて-8.5人と下回った。
- ・高等学校における1,000人当たりの不登校生徒数は、全国平均と比べて1.8人上回っており、全国と同様に増加傾向にある。

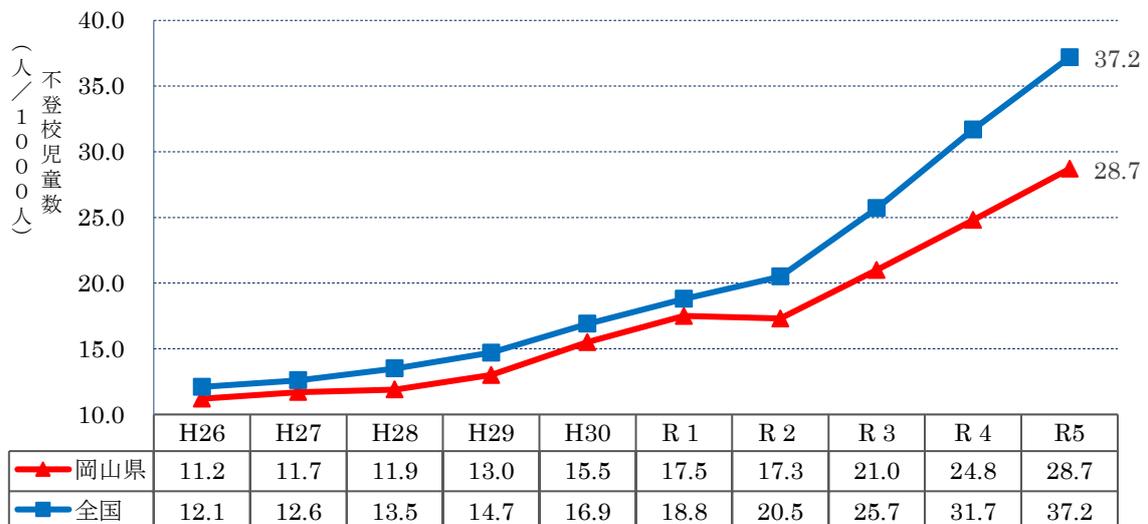
<国立・公立・私立 計 小中学校における長期欠席者数理由別内訳、1,000人当たりの不登校児童生徒数>

校種	年度	長期欠席者数	理由別人数					1,000人当たりの不登校児童生徒数	
			病気	経済的理由	不登校	※1 感染症の 回避	※2 新型コロナ ウィルスの 感染	その他	岡山県
小学校	R3年度	3,012	386	0	1,146	547	933	11.7	13.0
	R4年度	3,611	452	0	1,389	284	1,486	14.4	17.0
	R5年度	3,630	1,140	0	1,698		792	17.9	21.4
中学校	R3年度	4,015	1,028	0	1,992	275	720	38.8	50.0
	R4年度	4,529	1,255	0	2,279	194	801	44.8	59.8
	R5年度	4,571	1,710	0	2,475		386	49.2	67.1

小中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
岡山県	21.0	24.8	28.7
全国	25.7	31.7	37.2

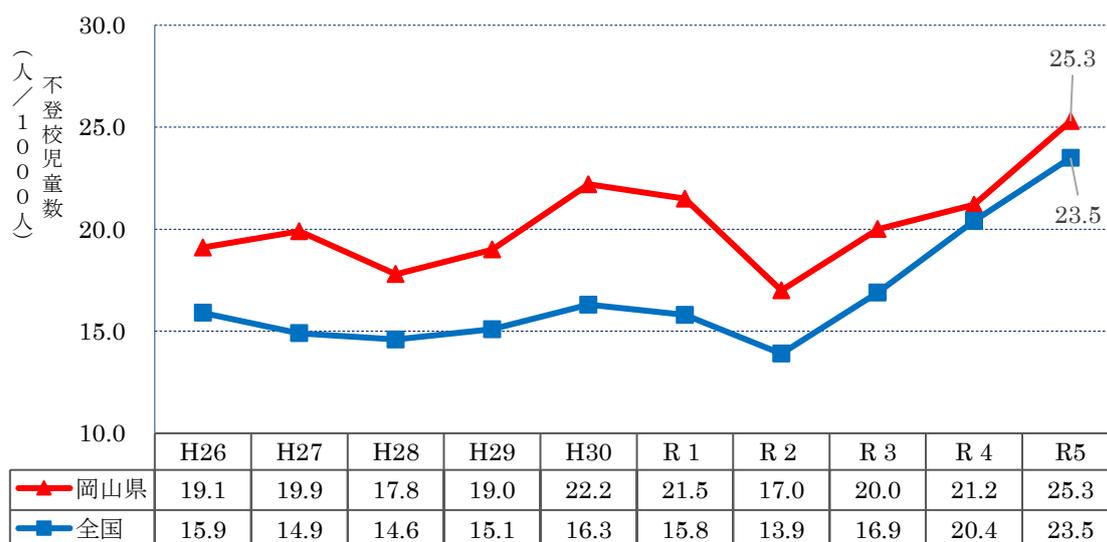
1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移（小中学校計）



<国立・公立・私立 計 高等学校における長期欠席者数理由別内訳、1,000人当たりの不登校生徒数>

校種	年度	長期欠席者数	理由別人数					1,000人当たりの不登校生徒数	
			病気	経済的理由	不登校	※1 ウイ ルス の 感 染 回 避	※2 新 型 コ ロ ナ	その他	岡山県
高等学校	R 3 年度	1,910	317	3	992	178	420	20.0	16.9
	R 4 年度	2,567	539	2	1,034	162	830	21.2	20.4
	R 5 年度	2,259	738	7	1,218		296	25.3	23.5

1,000人当たりの不登校生徒数の推移（高等学校計）



○ 長期欠席者数の定義変更について

(1) 長期欠席者数の定義

3月31日現在の在学者のうち、調査対象年度間に、連続又は断続して30日以上欠席（R2からR4調査では出席停止・忌引き等を含む。）した児童生徒数。

(2) 理由別長期欠席者数の定義

「不登校」：何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒本人が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者。（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）

※1 R2からR4調査「新型コロナウイルスの感染回避」：新型コロナウイルスの感染を回避するため、本人又は保護者の意思で出席しない者、及び医療的ケア児や基礎疾患児で登校すべきでない」と校長が判断した者。

※2 R2からR4調査では「その他」の中に、コロナの罹患、濃厚接触等で出席停止となった日数も含まれていた。

【資料5】暴力行為の状況

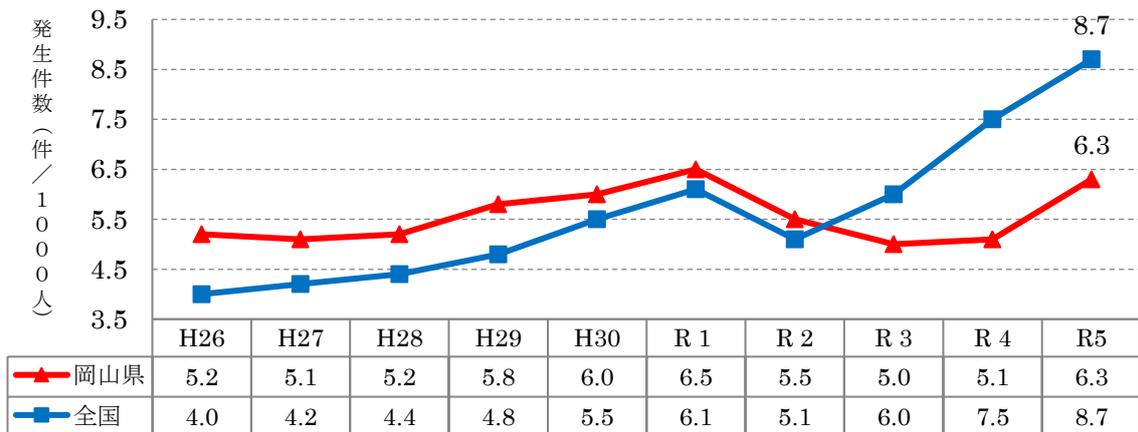
・小中高合わせた1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、全国平均と比べて-2.4件と下回った。

<国立・公立・私立 計>

小中高における1,000人当たりの暴力行為の発生件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
岡山県	5.0	5.1	6.3
全国	6.0	7.5	8.7

1,000人当たりの暴力行為の発生件数の推移（小中高計）



校種	年度	学校総数	発生件数計
小学校	令和3年度	385	488
	令和4年度	378	498
	令和5年度	372	607

1,000人当たりの発生件数	
岡山県	全国
5.0	7.7
5.1	9.9
6.4	11.5

校種	年度	学校総数	発生件数計
中学校	令和3年度	166	442
	令和4年度	165	432
	令和5年度	165	527

8.6	7.5
8.5	9.2
10.5	10.4

校種	年度	学校総数	発生件数計
高等学校	令和3年度	91	91
	令和4年度	91	96
	令和5年度	91	132

1.7	1.2
1.8	1.3
2.4	1.7

<形態別発生件数 国立・公立・私立 計>

	対教師暴力				生徒間暴力				対人暴力				器物損壊			
	小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計
R3	67	75	5	147	370	306	63	739	7	4	2	13	44	57	21	122
R4	96	48	6	150	353	335	67	755	1	10	4	15	48	39	19	106
R5	111	67	8	186	456	402	96	954	2	4	10	16	38	54	18	110

○ 暴力行為の定義

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む）、「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る）、「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く）、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。

県教委における今後の取組 (政令指定都市である岡山市を除く)

1 「学校を誰もが通いたくなる、魅力ある場所に」

・【岡山県不登校総合対策】OKAYAMA夢につながる学びプロジェクト

誰一人取り残されない岡山県の教育に向け、不登校対策にとどまらない、子どもが真ん中の学校づくりを進める中で、学ぶ力の育成や生徒指導の在り方等を一体的に推進する。

- ①学校を誰もが通いたくなる魅力ある場所とする
- ②子どもたち、保護者と丁寧なコミュニケーションを図る
- ③子どもたちに、多様な学びの場を用意する

以上の3つを柱に誰一人取り残されない学びの実現を目指す。

2 組織的生徒指導の更なる徹底

- ・ 校長のリーダーシップのもと、生徒指導担当者を中心とした、全教職員によるきめ細かな状況把握や情報共有に基づいた、組織的対応の徹底による生徒指導體制の充実
- ・ 『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード』等の既存の不登校対策のツールを整理・統合した新たな冊子を作成し、不登校の未然防止や自立応援室の活用、個々の不登校児童生徒の状態に応じた具体的な支援等、不登校対策の組織的対応力を一層強化
- ・ 全ての児童生徒が校内で安心して過ごすことができるよう、自立応援室の県内全域への展開に向け、「心の居場所推進プロジェクト」及び「小学校におけるシステム化推進事業」の更なる充実と成果の普及
- ・ 日常の教職員による丁寧な観察や、1人1台端末を活用した心の健康観察の実施など、児童生徒の小さなSOSも見逃さない取組や、専門家や関係機関と連携した教育相談体制を整備し、適切な指導と支援の充実
- ・ 不登校や暴力行為、いじめ等への学校の組織的対応力の強化に向けた管理職や担当者への研修の充実と、校内研修等で有効に活用できる各種資料の提供
- ・ 日常の観察や個別面談、ICTを活用したアンケート調査等より「いじめ見逃しゼロ」を目指し、いじめ問題対策基本方針に基づいた、いじめの早期発見、早期対応及び確実な解消に向けた取組を徹底

3 児童生徒の規範意識・コミュニケーション能力等の育成

- ・ 学校の教育活動の中で、子どもたちが自ら考え決定できる場面を増やし、自己決定力や多様な他者を認めながら協力する力を育成
- ・ 暴力行為やいじめ等への未然防止の対応として、日々の授業や道徳教育、特別活動等を通して、対人関係スキルを身につけるなど、感情のコントロールやコミュニケーション能力を育成
- ・ 警察等と連携した、非行防止教室やあいさつ運動等の実施による規範意識等の醸成
- ・ 情報モラル教育を一層充実させるとともに、スマホの利用に関する家庭のルールづくりを促進するだけでなく、自分のルールの設定やマナーを身につける啓発チラシを作成し、PTA研修会や懇談会等において、スマホ・ネットとの正しい付き合い方を周知徹底

4 専門家や関係機関、医療等との連携の推進

- ・ 組織的対応と早期対応を重視したSC、SSW等の専門家の積極的な活用による適切なアセスメントの実施と先を見通した対応の充実、教育支援センターの機能強化やフリースクール等の民間団体、社会教育関係施設との連携による不登校児童生徒一人一人のニーズに応じた学校内外における多様な学びの場の整備促進
- ・ 不登校に関係する支援団体や相談機関を県教委のホームページに掲載するなど、不登校等に悩む児童生徒や保護者が、悩みを抱えて孤立しないよう必要な情報を提供
- ・ 健全育成対策室と連携した学校訪問や、関係機関と連携した取組を推進し、暴力行為等の未然防止や早期対応の徹底

SC (スクールカウンセラー)、SSW (スクールソーシャルワーカー)